



## 日本思想史研究室彙報 2015(平成27)年度

著者	日本思想史研究室
雑誌名	日本思想史研究
号	48
ページ	132-136
発行年	2016-03-25
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10097/00123225">http://hdl.handle.net/10097/00123225</a>

東北大学大学院文学研究科  
日本思想史研究室彙報

二〇一五（平成二十七年）度

(一) 日本思想史専攻講義題目

日本思想史 概論（三セメスター）	教授 佐藤 弘夫
「日本思想史」の課題と方法	
概論（四セメスター）	准教授 片岡 龍
「日本思想史」の意義と発展	
各論（六セメスター）・特論Ⅰ	教授 佐藤 弘夫
霊場論	
各論（五セメスター）・特論Ⅱ	准教授 片岡 龍
「思想史」とは何か	
各論（六セメスター）・特論Ⅲ	准教授 片岡 龍
「思想史」とは何か	
各論（五セメスター）・特論Ⅳ	非常勤講師 富樫 進
都を夢見る鄙の人々——〈中央〉と〈辺境〉の思想史	

同	各論（五セメスター）・特論Ⅴ（集中講義）	非常勤講師 頼住 光子
同	日本仏教思想の諸問題	
同	演習（五セメスター）	准教授 片岡 龍
同	日本思想史の諸問題Ⅰ	
同	演習（六セメスター）	〃
同	日本思想史の諸問題Ⅱ	
同	研究演習Ⅰ	准教授 片岡 龍
同	日本思想史の諸問題Ⅰ	〃
同	研究演習Ⅱ	
同	日本思想史の諸問題Ⅱ	准教授 片岡 龍
同	基礎講読（三セメスター）	准教授 片岡 龍
同	古文・くずし字史料をよむ	
同	基礎講読（四セメスター）	
同	古文・漢文史料をよむ	非常勤講師 富樫 進
(二) 日本思想史専攻卒業論文並びに学位論文題目		
卒業論文		
津田真道の思想	小原 早織	
寺山修司と戦後日本	朽木 雄介	
日本近代スポーツ文化の黎明——嘉納治五郎と柔道の歩み	古山 善貴	

日本人の自死観の変遷と発展

十返舎一九による化物草紙の考察

現代における聖徳太子像——人間的太子像の成立

江渡狄嶺の農業観

相馬の伝統と復興

上田秋成の思想——その女性観を中心に

直心影流における修行観

中近世仏教とジェンダーについて

古代王権と山野河海——古代地域社会との関わりから

貝原益軒における「民生日用」学

## 修士論文

浄土教の神祇観 法然と親鸞について

横井小楠の武と心法

平田篤胤における道教的思想の受容

——医学・易学との関係から

古代日本の礼楽思想について

竹内敏晴研究——その生涯と思想

道元の思想——「修証」・教育を中心に

万葉集における思想史的考察——大伴家持と万葉集

## 博士論文

日蓮における中国思想の受容と展開

近世庶民の世界観——「異人」観を中心に

近世日本における孔子祭祀の研究

——釈奠・釈菜をめぐる「道」と「礼」

(三)日本思想史研究会月例会

六月例会(二〇一五年六月二〇日)

竹内敏晴の思想——林竹二・野口三千三の思想との連関

大伴家持と万葉集

横井小楠の文武観

七月例会(二〇一五年七月一八日)

浄土教の神祇観——法然と親鸞について

道元の只管打坐——悟りの世界での修行について

奈良時代における宮廷音楽と礼楽思想——女の舞を中心に

八月例会(二〇一五年八月八日)

平田篤胤の易学に見る道教的思想との関係

『天地始之事』にみられるキリスト教受容の諸相について

芹澤寛隆

ボウニョウ・エレナ

李月珊

柴田朗

白崎信良

森本輝嗣

青柳弘樹

丁濟幙

龔潤奕

松本学

柴田朗

丁濟幙

龔潤奕

松本学

森本輝嗣

平安浄土思想と「孝」——輪廻思想との関わりから

小泉 礼子

一月例会（二〇一五年二月二〇日）

菅野八郎から考える幕末期民衆思想

青野 誠

元良勇次郎の宗教観念——「科学」と「宗教」の間

森川 多聞

二月例会（二〇一五年二月二二日）

寛克彦の皇族論について

西田 彰一

一月例会（二〇一六年一月三〇日）

伊藤仁斎における「血脈」の意味について

宣 芝秀

藤樹没後の「藤樹学」の展開

高橋 恭寛

徂徠学派の擬古楽府について——「烏生八九子」を中心として

吉川 裕

二月例会（二〇一六年二月六日・二月七日）

——卒業論文・修士論文発表会——

卒業論文

津田真道の思想

——「富国」に関して、その社会認識と対外意識の変容

小原 早織

日本近代スポーツ文化の黎明——嘉納治五郎と柔道の歩み

古山 善貴

十返舎一九による化物草子の考察

安東 美香

現代における聖徳太子像——人間的太子像の成立

岩原 悠

江渡狄嶺の農業観

相馬の伝統と復興

上田秋成の思想——その女性観を中心に

岡村 拓輝

中近世仏教とジェンダーについて

鈴木 文緒

修士論文

古代王権と山野河海——古代地域社会との関わりから

皆川 弘二郎

横井小楠の武と心法

森本 輝嗣

平田篤胤における道教的思想の受容——医学・易学との関係から

松本 学

古代日本の礼楽思想について

翼 潤 奕

竹内敏晴研究——その生涯と思想

柴田 朗

万葉集における思想史的考察——大伴家持と万葉集

白崎 信良

（四）韓共同国際フォーラム

「東アジアのナショナリズムの相剋／国際民主主義の可能性

——近代日韓知性の思想と実践」

二〇一五年八月六日・七日、吉野作造記念館を会場として開

催された。

【テーマならびに発表者（敬称略）】

事大と自主

尹 大植

植民地韓国に対する外部の視線と様相

李 宅善

（韓国外大）

民族の悲劇と抵抗に関する物語り

(成均館大)  
洪 元 杓  
(韓国外大)

吉野作造と在東京朝鮮人留学生

小 嶋 翔  
(吉野作造記念館)

日韓併合期の民衆運動にみる宗教の役割

陳 宗 炫  
(東北大・院)

人間・吉野作造の「語り部」として三〇年

永 澤 汪 恭  
(『吉野作造通信』を発行する会)

ナシヨナリズムとデモクラシー

佐 藤 太久磨  
(立命館大)

大正知識人をめぐる「中国」

朱 琳  
(中央大)

押川方義と朝鮮

松 谷 基 和  
(東北大)

誰が東亜に「調和」をもたらすのか

鈴 木 啓 孝  
(東義大)

### 【指定討論者など】

小倉紀蔵(京都大)、浅野豊美(早稲田大)、佐野正人(東北大)、  
今高義也(宮城学院中学校・高等学校)、森川多聞(東北大)、  
石田徹(島根県立大)、宣芝秀(東北大・院)、劉田夏、丁濟峽  
(東北大院)、佐々木隼相(東北大・院)、青野誠(東北大・院)、  
チエダウル(東北大・学部)、阿子島香(東北大)、大川真(吉  
野作造記念館)、片岡龍(東北大)

### (五)日本思想史学会二〇一五年度大会

二〇一五年一〇月一七日・一八日の両日、早稲田大学を会場  
として開催された。本研究室からの発表者は次の通りである。

「人間」と「非人間」——近世庶民の世界観の側面

伊藤仁斎における「悪」の認識について  
宣 芝 秀  
ポロミツア・モレナ

### (六)研究室研究助手・学生・研究員名簿(括弧内は研究テーマ)

#### 研究助手

岡 安 儀 之(日本近代思想史・メディア史)

#### 専門研究員

高 橋 恭 寛(中江藤樹研究)

村 上 麻佑子(貨幣研究)

吉 川 裕(近世儒学研究)

#### 大学院博士課程後期

アントニウス・プジョ(新渡戸稲造研究)

小 泉 礼 子(日本古代仏教思想史)

後 藤 憲 一

島 田 雄一郎(近代日本の医療思想・宗教思想)

宣 芝 秀(近世の経世論研究)

油 座 圭 祐(柳田國男・山人研究)

芹 澤 寛 隆(日蓮教学研究)

陸 暁 晟(武士道の定義の思想史的研究)

赤谷 正樹（『平家物語』の思想的研究）

ポロヴニコヴァ・エレナ（近世庶民の世界観）

李 月 珊（近世日本の儒教儀礼）

城 所 喬 男（近世神道思想）

梅 原 博（鎌倉仏教と親鸞）

陳 顯 傑（古代道教思想と日本神話）

# 大学院博士課程前期

青 柳 弘 樹（清沢満之における親鸞思想）

森 本 輝 嗣（横井小楠研究）

松 本 学（平田国学）

龔 潤 奕（古代日本の「菜」の思想）

柴 田 朗（日本における近現代演劇を巡る思想）

丁 濟 帙

白 崎 信 良（万葉集から見る古代天皇像）

青 野 誠（幕末期民衆思想研究）

佐々木 隼 相（ダーウィニズムに関する思想史的研究）

林 京 子（真盛上人の研究）

馬 場 秀 幸（中世伊勢神宮における神道説の形成）

# 大学院研究生

カロリーナ・パテラ

# 学部

小 原 早 織 朽 木 雄 介 古 山 善 貴

枇々木 翼 浅 見 秀 作 安 東 美 香

岩 原 悠 岡 村 拓 輝 小 林 千 尋

鈴木 文 緒 寺 尾 勇 太 郎 皆 川 弘 二 郎

山野下 すみれ 渡 邊 美 咲 木 戸 希 望

崔 多 蔚 市 川 晨 太 郎 稻 垣 徹 人

木 内 菜 坂 本 光 菅 原 愛 美

武 田 雅 広 土 樋 晃 平 深 澤 和 史

吉 田 有 希 渡 澤 萌

# 交換留学生

トゥファノワ・タチアナ

グロツサー・フロリアン

デルムア・ティナ・ミ

トイニス・ユリアン

キアメンティ・アリーチェ

ルッソ・アルド

ロヴィト・フラヴィオ

王 佳 蓓

ニールス・ファン・デル・サルム

ビッティ・ダヴィデ

日本学術振興会外国人特別研究員

アリム・トヘティ

リサーチフェロー

中 嶋 英 介